



マーケット・レター

世界に広がるインカム投資の機会～豪州債券編～

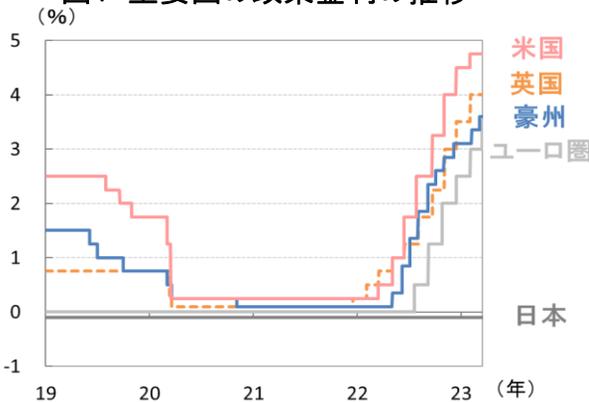
【お伝えしたいポイント】

- 主要国の政策金利の引き上げにより、債券投資の機会は世界に広がる。中でも、豪州の10年債利回りは米国と並ぶ高水準にあり、日本との金利差の面で豪州債券の投資魅力が高まりつつある。
- 豪州は主要国の中でも底堅い景気回復を維持しており、景気後退リスクの市場予想は限定的。2023年の不透明な市場環境の中、安定したインカム収益が期待される豪州債券は長期投資の対象として見直される可能性。

主要国の政策金利の引き上げによって、債券投資の機会が世界に広がる

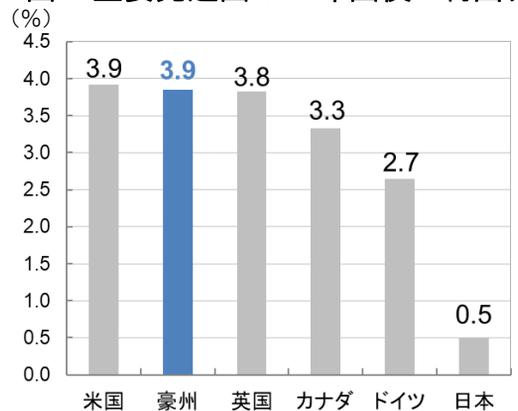
- 2022年は米国を筆頭に多くの国で政策金利の引き上げが行われました(図1)。世界的な利上げと債券利回りの上昇を受けて、米国以外の国にも債券投資の機会が広がっています。特に豪州の10年国債利回りは米国と並ぶ高水準にあり、日本との金利差の面で豪州債券の投資魅力が高まりつつあります(図2)。

図1: 主要国の政策金利の推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2019年1月初～2023年3月17日

図2: 主要先進国の10年国債の利回り



(出所)ブルームバーグ、2023年2月末時点、小数点第2位を四捨五入

豪州10年国債利回りに安定化の兆し、海外投資家の豪州債への見直しが進む

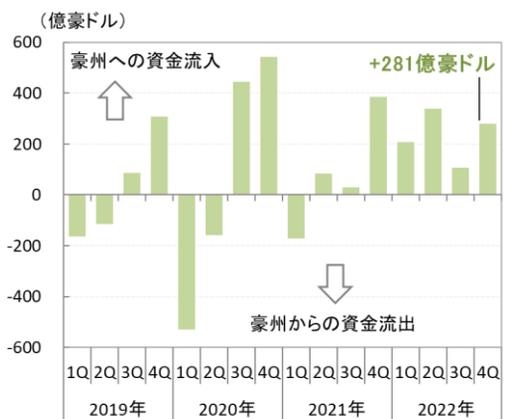
- 2022年5月に始まった豪州の利上げ局面は終盤に差し掛かっており、先行きの利上げを織り込み上昇してきた豪州10年国債利回りにも安定化の兆しがみられます(図3)。利回りの上昇を受けて、2022年には海外から豪州への債券投資が流入傾向に転じるなど、海外投資家の豪州債券への見直しが進みつつあります(図4)。

図3: 豪州の政策金利と10年国債利回りの推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2021年1月初～2023年3月17日  
※市場予想はエコノミスト予想コンセンサス値、2023年3月末～2024年12月末

図4: 海外投資家の豪州への債券投資の推移



(出所)豪州政府統計局(期間)2019年1Q～2022年4Q

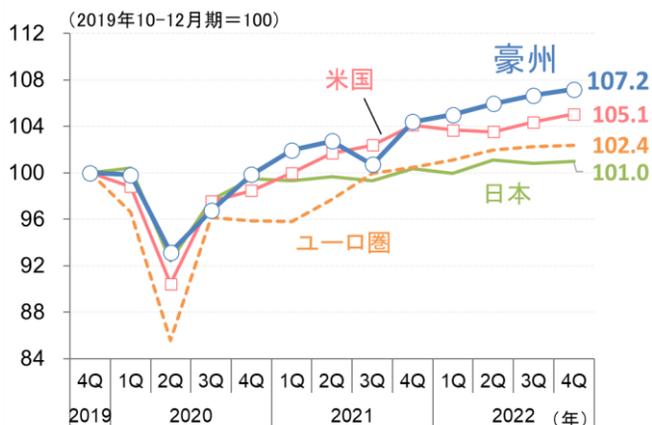
●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



## 主要国の中で豪州の景気回復が先行する傾向

- 豪州の2022年10-12月期の実質GDPは前期比+0.5%とプラス成長を維持し、主要国の中でも豪州の景気回復が先行する傾向にあります(図5)。欧米諸国では先行きの景気後退リスクへの懸念が根強い一方、豪州の景気後退確率の市場予想は安定した内需を背景に35%と限定的に留まっています(図6)。

図5: 主要国の実質GDPの推移



(出所) 各国公式統計  
(期間) 2019年10-12月期～2022年10-12月期

図6: 主要国の景気後退確率の市場予想

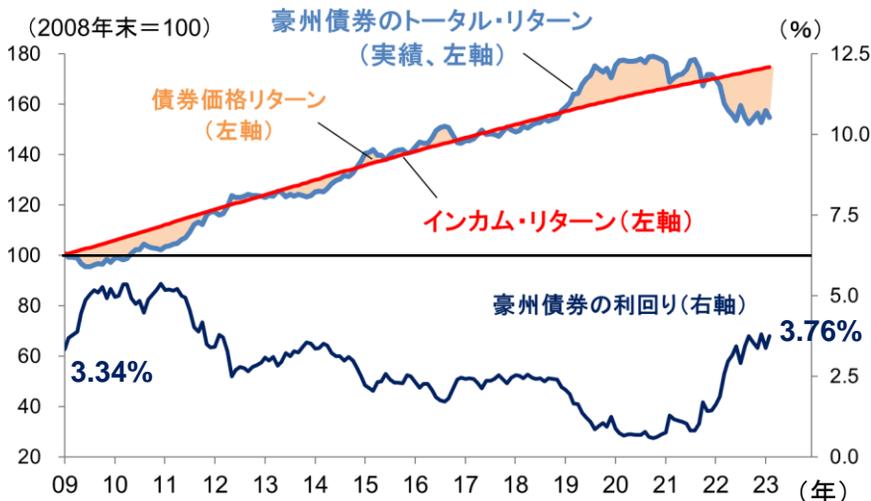


(出所) ブルームバーグ  
(注) 今後12か月の景気後退確率に関する市場予想(3月13日時点)。

## 長期のインカム収益の積み上げが豪州債券の安定したリターンに寄与

- ここで豪州債券のトータル・リターンの要因分解を見ると、安定した債券の利息収入から得られるインカム・リターンの積み上げが長期的にトータル・リターンの押し上げに寄与してきたことが分かります(図7)。
- 世界的な金融不安や景気後退への懸念が残る2023年の市場環境においては、豪州債券は相対的に高い利回りによって今後も安定したインカム収益の獲得が期待され、長期投資の対象として見直される余地がありそうです。

図7: 豪州債券のトータル・リターンの要因分解



(出所) ブルームバーグ  
(期間) 2009年1月末～2023年2月末、  
月次データ  
豪州債券: ブルームバーグ豪州国債指数

トータル・リターン  
(債券運用の投資成果)



債券価格リターン  
(債券価格の変動)



インカム・リターン  
(債券の利息収入)

※上記はイメージです

●当資料は、説明資料としてフランクリン・templton・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・templton・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。